

いきいき男女共同参画

一番弱い人が、一番安全に大事にされているまちに！

堂本暁子さん講演する

飯山市男女共同参画「いきいき女性センター」未来文化講演会は、前千葉県知事・元参議院議員の堂本暁子さんが「大震災が教えてくれたもの」と題して講演されました。要旨は次のとおりです。



△講演する堂本暁子さん

■長野県は子どもの頃からよく来ていて、戦争中も香掛（今の軽井沢町）に疎開していましたが、山登りやスキーでもよく来ています。千葉も緑は多いが、飯山の緑は全然違います。奥行きのある緑、多様性のある自然の飯山は素晴らしいと思っています。

■国会議員時代から関わってきた生物多様性（相互に依存しあう生物の関係を問題にする。生き物たちの豊かな個性とつながりのこと。生命は一つひとつに個性があり、すべて直接に、間接的に支えあつて生きている）では、「日本人は、これまで上手に身の周りの自然を活

用して生活してきた。この地域には貴重な動植物がいる」ということを、どれだけ認識して取り組んでいけるかが大事なことです。

■コストリカという国では、絶滅危惧種がたくさんある地域で、熱帯雨林の伐採をやめ、軍隊を持つこともやめ、その代わりに生物多様性を売り物にし、観光国としてやっています。小さな国だが、自然を壊さないよう配慮しながら、世界中から観光客が行っている。飯山にも『日本のコストリカ』になつてほしいと思います。

■自己紹介を兼ねると、報道のカメフラマン、記者、ディレクターが私の仕事のスタートです。その後、国会議員時代には男女共同参画の法律や制度をつくることにも関りました。千葉県知事の時、県民参加型の県政をやるといふことで、80市

町村の皆さんにどんな地域づくりが良いか、聞いて歩きながらつくった。モットーは、『理不尽な理由で辛く悲しい思いをしている人はいませんか』。今回の東日本大震災でも、非常に今年寄りか辛い思いをしました。男女共同参画は、女性と男性のことだけじゃないです。もちろん男性も女性も暮らしやすいことが大事ですが、障がい者、高齢者、外国人の問題など、とにかく差別をされない形。学校での子どものいじめもそうです。差別があることをなくすことが、災害に強い地域を作ることにいい。

■万一の時のために用意することは、大切なことです。災害のために備えているということは、耳の聞こえない方や眼の見えない方はどこにいるんだということ、常日頃皆さんが意識する。一人暮らしのお年寄り、母子家庭のお母さんに、みんなの気配りが届いていく。それは防災に強い飯山を作るのと同時に、毎日の飯山の生活が豊かになつて行くに違いない。

講座のお知らせ・・・

～ともに生きる！身近な一歩からはじめよう～

- ◆定員 30名
(市内在住または勤務している男女)
- ◆申込み
平成24年9月3日(月)まで
- ◆託児 無料
※希望される方は事前にご連絡ください
- ◆会場
いきいき女性センター未来
- ◆申込先
男女共同参画係 ☎62-3111
女性センター未来 ☎62-0543

第1回 9月11日(火) 午後6:45～8:45
開講式・「女性が元気な長野県をめざして」茶話会と講演
講師 長野県副知事 加藤さゆりさん

第2回 9月26日(水) 午後7:00～9:00
「少子高齢化時代の暮らし方・働き方」
講師 (株)コミュニケーションズ・アイ代表取締役 伊藤かおるさん

第3回 10月16日(火) 午後7:00～9:00
「私たちの町は何色？」
講師 フリージャーナリスト 内山 二郎さん

第4回 11月6日(火) 午後7:00～9:00
「地域を活かす、ひとづくり」
講師 松本大学 観光ホスピタリティ学科長 白戸 洋さん



人権政策課男女共同参画係
電話：0269-62-3111
FAX：0269-62-5990
(内線 371)

E-mail：
jinken@city.iiyama.nagano.jp

いきいき女性センター未来
飯山市大字飯山 1431
電話・FAX：0269-62-0543

E-mail：
center-mirai@city.iiyama.nagano.jp

もが住みやすい町です。誰もが住みやすい飯山を作るためには、防災のために十分考えて、皆さんで意見を出し合つて、行政とも十分相談してほしい。

■経済復興だけでなく、もつと人間の生きる、生活している、多様な生活の視点が大事。地域でいえば誰もが排除されていない、一番弱い人がきちつと、目配り気配りされている、そういう自治体がとても大事です。

■仙台市の宮城野区では、女性区長さんが、震災の起きる一年前に防災宣言を作った。女性たちを集めて、女性たちが引つ込んでいてはだめだ、自分たちでいろんな役を果たしなさいということ、あなたの大事な人は誰ですか。今何をすること、大切な人の命を守るなら、すぐにそれを始めませんか。私たちはここでみんなが安心して暮らすために自分たちでできることを考えて行動します。これがあつたお陰で、震災時すぐ早く対応できた。考えていれば動ける。そういうことを考えあつたお陰で、地域の人たちがみんな親しくなつてきた。ということもとても大事だと思えます。

■行政の問題もある。非常時に、超法規的に判断して、決断して、個人情報を出して、どう避難するか。行政マンの心構え。法律や規則よりも人間の方が

大事なんだ、自分の市にいる一人ひとりの人が大事なんだということを、きちつと考えなくてはいい。

■災害に強い地域社会。それは男女間の男女共同参画も大事ですが、子どもや障害者、高齢者が差別することなく、差別されることなく、自分らしく生活できる社会。そういう生活ができる飯山市、それは災害に強い社会だろうと思えます。行政と市民の皆さまとで相談しながら、つくりあげていくことが、これから本当に大事なものな時期ではないかと思えます。

□講演後の質疑応答では、聴覚障害の参加者が「何かあつた時に、目でわかるパトライトのようなものを導入できないか」と発言し、月岡副市長は「なかなか気が付かない提案で、これから防災計画を見直すうえで検討して盛り込み、また行動に移していきたい」と、答えました。□担当課から、「防災行政無線のデジタル波のものには文字放送を受信できる個別受信機も製品化されているのでデジタル移行の際には検討したい。現在、聴覚に障害のある人が気がつきやすい携帯電話を利用したエリアメールの導入について手続中で、まもなく利用可能の予定です。」とありました。

ホームヘルパー2級養成講座はじまる

7月2日(月)、ホームヘルパー2級養成講座の開講式が行われ、長野県介護福祉士会の畠山会長を講師に、「福祉理念とケアサービスの意義」「サービス提供の基本視点」についての講習が行われました。

7月の講習は、飯山赤十字病院の古川院長による「医学の基礎知識」や日赤訪問看護ステーション認定看護師による「在宅介護の基礎知識」など、介護員として必要な基礎知識について学びました。

8月後半からは基本介護技術の講習が始まり、介護される側の立場も体験しながら基本技術を学びます。

9月からは、実際に施設へ出かけ、4日間(30時間)かけて施設介護実習を受ける予定となっています。



熱心に講習を受ける受講生

夏*きもの講座はじまる

7月30日(月)に、第1回夏きもの講座(浴衣の着付け講座)が開催されました。受講生は15名。自宅から各自浴衣や小物を持ち寄り、清水文子先生の指導の元、下着の付け方から帯の結び方まで、一通り学びました。



受講生の中には、以前習ったことがある方も多かったのですが、「しばらく着なかつたら忘れてしまった」と、一から教わる気持ちで真剣に学ぶ姿が印象的でした。

第2回目は8月1日(水)に開催されましたが、前回習ったことを忘れないうちに復習しながら着ることが出来たので、第1回目よりスムーズに着ることが出来た様子でした。

着付け講習は全3回ですが、これを機会に浴衣や着物でお出掛けするなどの機会が増えることを期待しています。

※「きもの着付け講座などに役立ててください」と、匿名で鏡台の寄付をいただきました。ありがとうございました。

